

**令和 6 年度
札幌市自立支援協議会
年間活動報告書
＜分冊 1 年間活動報告編＞**

札幌市自立支援協議会

令和 7 年 6 月

SAPP_RO

はじめに

札幌市自立支援協議会とは、障がいのある方が地域で自立した生活を送ることができるよう、地域の障がい福祉の発展のために、中核的な役割を果たす協議の場として、平成 18 年に札幌市が設置した市の附属機関です。

現在、札幌市自立支援協議会の中には、全体会のほか、区ごとに設置されている地域部会、3つの専門部会（相談支援部会、就労支援推進部会、子ども部会）、協議会の運営に関する議論や寄せられた部会だけでは解決できない課題の交通整理をする運営会議、カテゴリごとに分類された地域課題の整理・課題解決に向けたモデル的活動などを実行するプロジェクトチームがあり、障がいのある方が安心して暮らせる地域づくりを目指した活動を行っています。

このたびは、札幌市への報告のため、私ども札幌市自立支援協議会の令和 6 年度中の活動内容と、令和 7 年度の活動目標をこの報告書にまとめました。札幌市自立支援協議会へ報告されたものと同様な課題を抱える障がいのある方の暮らしや支援の参考として、また、今後の施策を検討する際の参考としていただければ幸いです。

札幌市自立支援協議会 会長 近藤 尚也

目次

1	各区地域部会	1
2	地域部会連絡会	27
3	相談支援部会	28
4	就労支援推進部会	31
5	子ども部会	34
6	専門部会連絡会	36
7	運営会議	37
8	全体会	48
9	重度身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトチーム	50

中央区地域部会



令和6年度の主な活動実績

- ★ 毎月1回（8月、12月、3月を除く）の定例会を開催
- ★ 毎月1回、事務局会議を開催
- ★ 「障害支援区分認定調査の心得」の作成

活動概要

令和6年度 活動実績	・ 毎月1回（8月、12月、3月を除く）の定例会を開催 ➤ 4月…「中央区地域部会の取り組み」 「令和5年度中央区地域部会年間活動報告」 ➤ 5月…「福祉の仕事が続けるコツとツボ」 ➤ 6月…「障害支援区分認定調査の心得」 「障害支援区分認定調査について」 ➤ 7月…「令和6年度しゃべりば in ちゅうおう」 ➤ 9月…実践発表会「不登校児童の支援」 ➤ 10月…「令和6年度しゃべりば in ちゅうおう」 ➤ 11月…「家族支援の難しさについて」 ➤ 1月…「実践発表会」 ➤ 2月…「個別避難計画から学ぶ地域資源の活用とアセスメント」 ・ 毎月1回、事務局会議を開催 ・ 令和5年度に実施した障害支援区分認定調査についてのアンケート結果を踏まえて、本人や家族、支援者に向けた「障害支援区分認定調査の心得」を作成
令和7年度 活動予定	・ 年間目標 ➤ 「障がい児・者の生活全般に関わる法律・制度、関係する機関や資源の理解を深める1年にしよう」【地域づくり】

	➤ 「より広く、より深く、顔の見える繋がりを作ろう」【連携】 ➤ 「地域課題を発掘するとともに、その解決に取り組もう」 【課題発掘と解決】 ・ 重点目標は「地域課題の吸い上げと、課題解決に向けた取り組み」 ➤ 発掘した課題の解決に向けた定例会の実施 ➤ 「まなびば」と「しゃべりば」の実施
部会運営で工夫していることや困っていること	
・ <u>工夫していること</u> ➤ 部会員のネットワークを構築するため、継続的に定例会を実施。 ➤ 定例会は、「まなびば」＋「しゃべりば」の二本立てを基本に行っている。 ➤ 「しゃべりば」は少人数のグループで「秘密厳守」を原則に、困りごとを相談できる場としている。その中で、地域課題を抽出していけるよう事務局員が配慮している。 ➤ 課題解決の目的に合わせ、課題別・年代別のグループにするなど、組み合わせに工夫を行っている。 ➤ １時間半まるごと「しゃべりば」とする定例会を開催して、定期的に課題抽出を行い、課題解決に向けた取り組みについて事務局会議で検討を行っている。 ➤ 定例会に参加した人に何かお土産を持ち帰ってもらえるように工夫している。 ・ <u>困っていること、今後取り組んでいきたいこと</u> ➤ 中央区特有の地域課題をどのように抽出し、解決策を考えていくか（利用者の障がい特性に応じた関わり方や性的問題、他機関との連携のあり方、制度・資源の活用方法など）。 ➤ 医療、児童、高齢者関係の参加者が少なく、今後、地域部会参加者の底上げをするための方策をどのように行っていけばよいか。 ➤ 事務局内に子ども部会の担当窓口となる人を選任していきたい。 ➤ 定例会に参加することが難しい人にも、まなびばなどの中央区地域部会の取り組み内容を伝える方法を検討していきたい。	

中央区地域部会 令和6年度実績一覧

開催日時	参加者数	プログラム	概要
第1回 4月17日	52名	○中央区地域部会の取り組み 多機能型事業所あずあいむ 片岡 正憲 様 ○令和5年度中央区地域部会年間活動報告 一般社団法人子供と青い空かわせみの森 登山 詩織 様 (中央区地域部会会長)	年度初めの開催のため、前半の「まなびば」は、前年度の活動報告と中央区地域部会についてあらためて説明を行い、後半の「しゃべりば」は、テーマにとらわれずに困りごとの相談や地域部会で取り組んでいきたいことなどについて意見交換を行った。
第2回 5月15日	61名	○福祉の仕事を続けるコツとツボ 就労支援事業所 あかり家 堤 友香 様 多機能型事業所 あずあいむ 山家 祐子 様 児童発達支援・放課後等デイサービス かわせみの森 小関 千那代 様 就労移行支援事業所 LITALICOワークス新さっぽろ 大屋 有那 様 児童発達支援・放課後等デイサービス りると桑園 小宮山 東生子 様	福祉に携わる方々がやりがいを持ち生き生きと活躍できるようなきっかけとしていただくとともに、職員のメンタルヘルスクエアや人材定着の観点からも事業所での取り組みのヒントになるよう、先輩職員から成功や失敗談、モチベーション維持の工夫などについて聞く座談会を開催した。
第3回 6月19日	73名	○障害支援区分認定調査の心得 相談室ほぼ 武田 康治 様 ○障害支援区分認定調査について 認定調査員 小野寺 拓 様	令和4年度より札幌市で障害支援区分認定調査の外部委託が開始されたことを受け、調査を受ける方や支援者に向けて中央区地域部会で作成した「障害支援区分認定調査の心得」を説明するとともに、認定調査員を講師にお招きしてお話いただいた。
第4回 7月17日	46名	「令和6年度しゃべりばinちゅうおう」 ①家族との希望にギャップを抱える障がい者への支援 ②不登校児童への支援 ③障がい者の性	これまでの定例会しゃべりばであげられた課題について、具体的にどのような困りごとが発生しているのか更に掘り下げるため、テーマごとのグループワークを行った。
第5回 9月18日	63名	実践発表会「不登校児童の支援」 ①特定非営利活動法人かかわり教室 加藤 那生子 様 ②一般社団法人子供と青い空かわせみの森 伊藤 和輝 様	具体的な支援内容を学びたいという声が多く寄せられたことから、第4回定例会のテーマに取り上げた「不登校児童の支援」について、2カ所の事業所から発表いただいた。
第6回 10月16日	55名	「令和6年度しゃべりばinちゅうおう」 ①家族支援 ②障がい児・障がい者本人の支援 ③他機関との連携	第4回定例会のテーマに取り上げた「家族との希望にギャップを抱える障がい者への支援」について、困りごとの要因や課題が幅広く存在し、複雑に絡み合っているケースが多くあることが判明したことから、これらの課題について更に議論を深めるため、テーマごとのグループワークを行った。
第7回 11月20日	63名	「家族支援の難しさについて」 北海道社会福祉事業団もなみ学園学園次長 河内 哲也 様	これまでの定例会において取り上げた「家族との希望にギャップを抱える障がい者への支援」や「家族支援」をテーマとしたグループワーク等を踏まえ、北海道社会福祉事業団もなみ学園より講師をお招きし、障がいをお持ちの方だけではなく、それを支える家族・世帯を含めて支援するための知識や方法についてお話いただいた。
第8回 1月15日	71名	「実践発表会」 ①札幌医科大学附属病院 神経精神科 精神保健福祉士 昌川 安希子 様 ②ディーキャリアITエキスパート札幌駅北口オフィス 職業指導員 江川 健太 様 ③旭山病院医療相談室 伊林 拓哉 様	これまでの定例会において取り上げてきた「家族支援」「本人への支援」「他機関連携」といったテーマについて、各事業所で具体的にどのような支援をしているのか知りたいといった声を受け、3カ所の事業所から発表いただいた。
第9回 2月19日	51名	「個別避難計画から学ぶ地域資源の活用とアセスメント」 さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール 高村 亮太 様	「誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業」を受託しているさっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オールより講師をお招きし、個別避難計画やアセスメント、地域に目を向けることや地域資源の活用についてお話いただいた。

北区地域部会



令和6年度の主な活動実績

- ★ 運営委員会、こども部会、相談支援部会の3つのチームで活動
- ★ 地域課題の洗い出しと解決策を検討し、部会内で社会資源の共有を図っている
- ★ 区民向けの勉強会などを開催、地域の交流を目的としたイベントの企画・運営

活動概要

令和6年度 活動実績	・運営委員会…毎月第3火曜日に開催（事前に事務局会議で内容を整理） ➢ 広報、学習会、地域課題の3チームを結成して活動 ➢ 支援者と利用者との壁を取り払うことを地域課題の1つに設定 ➢ 8月 広報誌「北の区から」第1号発行 ➢ 11月 広報誌「北の区から」第2号発行 ➢ 11月 学習会「支援者は『カスハラ』とどう向き合うか」 →33名参加 ➢ 1月 広報誌「北の区から」第3号発行 ➢ 3月 全体会・学習会「旧優生保護法と〈人生を選ぶ権利〉」 →30名参加 ➢ 区内の事業所に通う障がい者・障がい児が製作した作品の展示 ※障がい者の権利と支援者の立場の双方を擁護する必要性を確認した ・こども部会…毎月第3月曜日に開催 ➢ 学習会、説明会、カフェ、イベントの4チームを結成して活動 ➢ 8月 イベント「モルック交流会」→こども77名、大人34名参加 ➢ 9月 交流会「北区支援者カフェ（第1回）」→39名参加 ➢ 10月 説明会「事業所説明会」→8名参加 ➢ 11月 勉強会「虐待防止研修」→45名参加 ➢ 2月 交流会「北区支援者カフェ（第2回）」→14名参加 ※理学療法士等の専門職の交流の場を設け、地域連携の強化を図った
-----------------------	--

	・相談支援部会… 3 か月ごとに定例会を開催（前月に世話人会を開催） ➤ 7 月 勉強会「令和 6 年度報酬改定について」→18 名参加 ➤ 1 月 交流会「きたまるミーティング」→16 名参加 ※相談業務を進めるうえで生じる日頃の悩みを気軽に相談できる交流の場となった ＜防災に関する取組＞ ・10 月 3 日に幌北小学校で、幌北連合町内会の方々と幌北小学校 4 年生を対象とした北区防災訓練が開催された。北区地域部会として、この訓練に参加し、地域部会メンバーが講師となって、災害時の避難を想定した車椅子の操作訓練を行った。
令和 7 年度 活動予定	・運営委員会 ➤ 広報、学習会、地域課題の 3 チームを結成して活動する ➤ 広報チーム：広報誌「北の区から」の編集・発行を行う ➤ 学習会チーム：年 2 回程度の学習会を企画・開催する ➤ 地域課題チーム：地域にある課題を見つけ、関係者に共有する ➤ 地域のイベント「ノースロード 24 フェスタ」に参加する ➤ 北区防災訓練に参加する ➤ SNS 等を活用した情報発信の方法について検討する ➤ 他区の地域部会との情報共有や連携を強化し、合同でイベントや勉強会を開催することなどを検討する ・こども部会 ➤ チーム分けをせず、メンバー全員で年間の活動を行う ➤ 年 2 回程度の交流会を企画・開催する ➤ こどもに関係する地域の実情に即した勉強会の開催を検討する

	・相談支援部会 ➤ 制度改正に対応した勉強会を企画・開催する ➤ 相談業務での日頃の悩みを気軽に相談できる場を提供する ➤ 区内の相談室同士の意見交換会を企画・開催する ➤ 札幌市自立支援協議会相談支援部会との連携について検討する ＜防災に関する取組＞ ・10月頃に開催予定の北区防災訓練に参加する方向で調整中。例年と同様に、災害時の障がい者の避難を想定した車椅子操作の講習などに関わる予定。今年度は小学生にも車椅子操作の体験をしてもらうことを考えており、北区の地域安全担当に検討していただくよう打診している。
部会運営で工夫していることや困っていること	
・会議の開催方法について ＜オンライン会議のメリットとデメリット＞ オンラインで会議を開催する場合は、会場まで行く手間が省けるというメリットがある。しかし、会議の内容が参加者に伝わりにくいことや、議論が深まりにくいこと、参加者が多く、かつ、全員の意見を聞く必要がある場合は、対面で開催する会議よりも時間がかかってしまうなどのデメリットがある。 ＜工夫していること＞ 議論を深めたい、短時間で会議を終わらせたいという意図を持って、対面での会議の開催を望む声が多くある一方で、体調や交通事情のために会場に行くことができないメンバーがいるため、メンバー全員の会議への参加を目指して対面とオンライン^{そうほう}双方の方法でのハイブリッド開催をしている。 ・対面とオンラインの双方の方法で参加が可能な学習会や交流会を企画するなど、多様な参加を促す工夫をしている。	

- ・ 自立支援協議会の認知度が低いという実情があるため、広報活動に力を入れていく必要があると認識しているが、認知度を高めるための具体策がなかなか見いだせないで困っている。

東区地域部会

令和6年度の主な活動実績

- ★ 運営会議を毎月開催
- ★ 当事者、事業所、地域関係者が交流する「ふくしまルシェ」を開催
- ★ 支援者間ネットワークづくりを目的に、ネットワーク部会定例会を8回開催
- ★ 子どもに関わる地域の関係者が集まり、意見交換や学びの場となる、子ども部会「ウェルトーク」を2回開催
- ★ 強度行動障がいに関する研修会（年間5回）を実施
- ★ 学生向け出前講座の第一回目を実施

活動概要

令和6年度 活動実績	・ 運営会議を毎月開催 ➤ 対面+オンラインのハイブリッドで開催。 ➤ 地域課題への取組について、継続して議論・実施した。 ・ 3月22日（土）「ふくしまルシェ」を開催 ➤ 障がい者や事業所と市民が、ステージ発表、縁日、福祉バザーなどで楽しみながら交流を深めるイベントを会場を拡大して開催。 ➤ 障がい当事者がいくつかのお題を元にトークを繰り広げる「おしゃべり広場」を初のステージ開催。 ➤ テーマは「つながる輪」。約500人がイベントを楽しんだ。 ・ 支援者間ネットワークづくりを目的に、ネットワーク部会定例会を開催 ➤ テーマを様々な設け、交流会・座談会や上映会、PA制度や相談室に関する勉強会や、講師を招いての虐待に関する講演会など、幅広い内容で年間8回の定例会を開催した。 ・ 子ども部会「ウェルトーク」をオンラインで2回開催 ➤ 9月3日（火）第15回ウェルトークでは、「インクルージョンの実現
---------------	--

	に向けて考えてみよう！」をテーマに、グループ交流を実施。 ➤ 11月27日（水）第16回ウェルトークでは、「意思決定支援と合理的配慮を考えてみよう！」をテーマに、グループ交流を実施。 ・強度行動障がいに関する研修会（年間5回）を実施 ➤ 地域課題に対する東区地域部会の取組として研修を企画・実施。 ➤ 二年目を迎え、毎回基礎を再確認しながら、テーマごとにより実践的な内容で開催。延べ120人超が参加した。 ・学生向け出前講座の第一回目を実施 ➤ 9月18日（水）、三障がいの当事者である部会委員3名を講師に、『『バリア』について考える』をテーマとして出前講座を実施。北斗高校の介護資格の取得を目指す生徒11人を対象として行った。
令和7年度 活動予定	・当事者、事業所、地域関係者が交流する「ふくしまルシェ」を開催 ・事業者、関係者に東区地域部会を知ってもらい、活動報告を行う場として全体会を開催 ・福祉サービス事業所同士のネットワークづくりを目的として、ネットワーク部会の定例会を開催 ・子ども部会「ウェルトーク」を開催 ・新たに専門部会として設置した「東区相談支援事業所ブロック会議」の定例会を開催 ・東区内で抱える地域課題への取組の実施継続（強度行動障がいに関する研修会、学生向け出前講座）
部会運営で工夫していることや困っていること	
・毎月、事務局会議、運営会議を開催し、密度の濃い検討・意見交換を行っている。 ・身体、知的、精神それぞれの障がい当事者委員がいるメリットを生かし、当事者目線での取組の実施や議論を行っている。 ・会報誌「タピネット」を積極的に活用し、各種情報提供を行っている。 ・各種会議やイベントの特性に合わせ、オンラインやハイブリッド開催を行っている。 ・委員それぞれの強みや専門性を活かし、各取組を推進している。	

白石区地域部会

令和6年度の主な活動実績

- ★ 運営委員会 毎月第2水曜日 10:30-12:00 開催 白石区地域部会の活動内容、課題について情報共有と検討を行う。
- ★ 9月 白石区全体会を開催 テーマ 白石区ってどんな地域(白石区の特徴を保健福祉課より話していただき、GWを行う)
- ★ 白石区内事業所で働く初任者を対象に基礎研修を3回実施(講義と交流)
- ★ 就労部会で就労barを証した交流の場を2回開催(事例検討と交流)
- ★ 子ども部会再開準備として研修会を開催 テーマ こんな時どこに相談したらいいの? 家児相のお話から考える

活動概要

活動実績	・ 月1回 第2水曜日 10:30-12:00 運営部会を開催 ➢ 令和6年度の活動の方向性を検討 ➢ 白石区の障がい福祉分野で働く人たちの質の向上を目的に基礎研修を実施(基礎研修チームが中心) 6月・8月・11月 ➢ 就労部会にて就労barを開催し、事例検討を実施 8月・2月 ➢ 第1回 運営委員会主催 白石全体会 9月20日実施 テーマ「白石区を知ろう」各分野ごと、サビ管・児発管・管理者の方がたを対象。グループワークにてそれぞれが持つ課題などを共有。 ➢ 子ども部会研修会開催 現在休止中の子ども部会再開に向けて研修会を2月に実施 ➢ 新年度に向けて指定特定相談事業所との連携方法について検討 ➢ 自立支援協議会全体会・地域部会連絡会・運営会議での話題共有
令和7年度活動予定	・ 運営部会 毎月1回 第2水曜日 10:00-12:00 白石区役所にて開催。 ・ 運営部会に指定特定相談事業所に入ってもらい、今後の連携と活動内容について検討する。 ・ 就労部会：就労交流会 年2-3回開催予定 ・ 基礎研修チーム：年数回 学習会を開催予定 ・ 白石全体会：年1回程度 内容を検討中 ・ そのほか地域部会で行ったほうが良い研修会や地域連携などを検討、実

	施する予定。
ぼうさい かん 防災に関 とりくみ する取組	・ 引き続き検討予定

部会運営で工夫していることや困っていること	
<工夫> ・ 運営にかかわる人員確保（各研修会の企画など）については、運営委員以外の構成員から人員を募り企画を立てている。 ・ 運営部会を対面、定例化し、各委員の予定を最初から確保してもらうことで、欠席者を最小限にとどめながら開催している。 <困りごと> ・ それぞれが現場を持ちながら協議会の活動を行っているため、実際の活動や検討に充てる時間の確保が難しい。 ・ 限られた運営委員では、各事業の運営に負担がかかるため、負担軽減や分散化などの工夫が必要。 ・ 子ども部会再開に向けてのどのように企画運営に携わってくれる人を募っていくか、仕組みづくりをどのようにしていくかの検討を行う。 ・ 指定特定相談支援事業所との連携についての仕組み作りをどのようにしていくかを今年度指定特定相談事業所に運営委員に入っていたことから検討していく。 ・ 白石区地域部会の構成員にむけて、メリットのある活動をどのように考えていくかを検討する必要がある。（情報発信や構成員向けの限定されたイベントなど） ・ 地域課題の抽出をどのように行っていくのかを引き続き検討していく。	

厚別区地域部会

令和6年度の主な活動実績

- ★ 総会にて座談会を実施（対面開催）
- ★ 事業所交流会を昨年に引き続き対面にて開催
- ★ 構成団体向けに事例をもとにグループワークを実施

活動概要

令和6年度 活動実績	・ 奇数月に1回、幹事会を開催（年6回） ➢ 部会の運営について検討 ➢ 事例検討の実施 ・ 地域部会を3回開催 ➢ 総会にて座談会を行い、厚別にあったらいいと思うものというテーマでグループワークを実施 ➢ 第2回地域部会にて厚別の高齢・児童・障がいの事業所交流会を実施。事業種別、経験年数に分かれて、グループワークを実施した。 ➢ 第3回地域部会にて事例をもとに区内の社会資源やあったらいいなの支援についてグループワークを実施。 ・ プチ交流会を開催 ・ 総会の際のグループワークの中で気軽に集まれる場所が欲しいという意見をもとに、フリートーク中心のプチ事業所交流会を開催。 ・ 三役・事務局会議を3回開催し、事前に論点を整理、素案の検討 ・ 子どもチームにて、区内の子どもに関する事業所、保育園、幼稚園等に参加を呼びかけ交流会を開催。いくつかの児童発達支援、放課後等デイサービスによるパネル等を活用した事業所紹介、フリートークを実施。
	<防災に関する取組>
令和7年度 活動予定	・ 相談チームの発足 ・ 事業所交流会を実施予定。 ・ 構成団体向けの勉強会を実施予定。

	・ 年３回の部会とは別に集える場について検討予定。
	<防災に関する取組>
部会運営で工夫していることや困っていること	
・ 気軽に集まれる場所があったらよいという声をもとに、プチ交流会を開催することができた。 ・ 部会の構成員となっている事業所の参加状況が停滞している現状もあり、規約の改正や幹事会の傍聴など活動を知ってもらう機会などについて検討。	

豊平区地域部会



令和6年度の主な活動実績

- ★ 総会・定例会 4月24日 学習会「障害福祉サービス等報酬改定と協議会についての制度改正」ワンオール林氏
- ★ 定例会 6回開催
- ★ 運営委員会 毎月開催
- ★ つきいち会（指定相談と委託相談の勉強会）7回開催
- ★ 広報「アップルネットワーク」4回発行

活動概要

令和6年度 活動実績	・ 定例会開催 ➤ 学習会 2回 ➤ 事例検討会 1回 ➤ 事業者紹介 1回 ➤ 茶話会 1回 ➤ 新年会 1回 ・ 事務局会議にて事前に論点を整理、素案の検討 ・ 運営委員を試験的に「研修」「防災」「広報」「地域課題」にチーム分けし、各チームで打ち合わせを行った内容を運営委員会で共有検討を行った。
	＜防災に関する取組＞ ・ 防災学習会 1回開催 ・ 札幌市総合防災訓練（大和ハウスプレミストドーム）に複数の福祉事業所と、障がい当事者が参画した。

令和7年度 活動予定	・2か月に1回の定例会を予定 ・運営委員の定数と任期の再検討を行う。 ・相談支援に関する取り組みを部会としてどのように位置づけるかを、札幌市の見解とすり合わせながら整理していきたい。 <防災に関する取組> ・豊平区防災訓練と札幌市総合防災訓練に複数の福祉事業所と、障がい当事者が参画したい。また、障がいに関する訓練メニューの提案も行いたい。
部会運営で工夫していることや困っていること ・運営委員の構成を現在の体制と時代の変化に合わせて再検討していく。 ・相談支援の加算等に伴う部会との関係をどうしていくか未整理なため混乱しており、運営委員の立候補を抑制せざるを得ない状態で困っている。札幌市の主動的判断を待っている。	

清田区地域部会



令和6年度の主な活動実績

- ★ 清田区内の障がい福祉サービス事業所、通所支援事業所、相談支援事業所、精神科医療機関等を対象に研修会を開催した
- ★ 課題整理の手法（部会内での課題抽出、運営委員会での解決策）を検討した
- ★ 他団体との共催による研修会を実施した

活動概要

令和6年度 活動実績	・運営委員会を毎月1回対面にて開催 ➤ 研修等の企画・運営に関する検討や振り返りを行った ➤ 下半期に実施予定の他団体との共催研修について検討した ➤ 専門部会構成員を含めた拡大運営委員会を開催 ➤ 専門部会の名称を「チーム」に統一する ・専門部会会議を開催 (こころのチーム、子どもチーム、社会資源チーム) ➤ 専門部会の活動内容やセミナーの開催に向けた打ち合わせを行った ➤ 防災マップ、事業所マップの更新を行った ・令和6年7月17日 全体会兼研修会の開催 (障害福祉サービス等報酬改定と協議会についての制度改正・グループワーク) 講師：林 健一氏 (さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オールセンター長) ・令和6年9月13日 子どもチーム交流会の開催 (民生委員や児童委員の取組みについて・グループワーク) 講演：清田区社会福祉協議会 ・令和6年11月20日 こころのチーム・清田区在宅ケア連絡協議会との共催研修の開催
---------------	---

	(発達障がいの基本の「き」)～多職種連携を見据え～ 講師：林 正賢氏／安保 麻衣子氏 (北海道精神保健推進協会こころのリカバリー総合支援センター) ・令和7年1月29日 子どもチーム交流会の開催 (“気になる子”とその保護者への対応、機関連携のポイント) 講師：多田 裕美氏 (札幌市自閉症・発達障がい支援センター おがる コラボレーター) ・令和7年2月26日 全体会兼研修会の開催 (地域課題とは～自立支援協議会のプロセスを知ろう～) 講師：高村 亮太氏 (さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール) ・社会資源の調査 ➤ 事業所等情報の把握方法検討 ➤ 清田区事業所への「元気さーち」更新強化 ＜防災に関する取組＞ (特になし)
令和7年度 活動予定	・運営委員会 ➤ 抽出した地域課題の解決策検討 ➤ 札幌市自立支援協議会の活動を共有 ➤ 相談支援事業所で構成した専門部会の設立検討 ➤ 全体会兼研修会の開催を予定（年2回） ・こころのチーム ➤ 在宅ケア連絡会とのコラボ研修による協働作業を予定 ➤ ネットワーク作り ➤ 研修^{けんしゅう} 1回^{かい} ・子どもチーム ➤ 他区の地域部会（子ども関係）や札幌市子ども部会への参加 ➤ 事業所間同士のネットワーク作り

	➤ 研修 1回 ・社会資源チーム ➤ 清田区事業所マップと防災マップの更新 ➤ 新しい社会資源への発信 ➤ 防災関係について
	<防災に関する取組> (特になし)

部会運営で工夫していることや困っていること	
(工夫していること) ・実習生や会員等から運営委員会への参加希望があれば、傍聴やオブザーバーとして参加することができるようにしている (困っていること) ・社会資源情報を集約するにあたり、利用者の困りごととして「元気さ一ち」の最新情報の更新がなされていない状況があり、施設の空き情報が把握できない事がある	

南区地域部会

令和6年度の主な活動実績

- ★ 事例検討や茶話会などを通じて個々の課題発掘を行い、部会内で検討、アイデアを出し合って活動に反映した。
- ★ 区民向け講演会を2回開催した。
- ★ 専門部会を再編し、新たに「おとなチーム」と「こどもチーム」を発足した。

活動概要

令和6年度 活動実績	【運営委員会（年6回）】【事務局会議（毎月）】 ・研修会・全体会の開催（3回） ⇒全体会（区内10事業所紹介と困りごとグループワーク）（R6.5.22） ⇒ソーシャルワークアセスメント研修（R6.8.2；約70名参加） ⇒ユニバーサルデザイン研修（R7.1.24；約40名参加） ・事務局会議を定例化。運営委員会と事務局との業務分担と課題整理。 ・組織体制の再編し、専門部会をおとなチームとこどもチームの2チームとして成人と児童が連携し活動することへ。 ・任期や入退会などについて規約の改正。 ・区内事業所への各種情報等の周知。 【こども部会】 ・運営会議（定例）。茶話会（研修・事例検討）4回。広報発行4回。 ⇒福祉事業所以外にこども園や学校、行政、医療などの参加 ⇒知的・発達障害啓発講座（手をつなぐ育成会）、事例検討会 ⇒活動内容やサポートファイルさっぽろの普及活動、南区のいいところPR、みなみの杜高等支援学校の生徒が作成の題字を活用 【地域課題解決部会】 ・運営会議（定例）。研修会2回 ⇒新人研修「虐待防止について」（事例とグループワーク） ⇒交流会「テーマ：悩みや困りごとの共有」（区内事業所アピールポ
---------------	--

	イント、空き状況等の共有)
	<防災に関する取組> ・ 特にありません。
令和7年度 活動予定	【運営委員会（年6回）】【事務局会議（毎月）】 ・ 連絡会、研修会、全体会の開催 ⇒連絡会を初めて開催、部会の取組報告、協議会の役割共有 ⇒研修会等は例年通り実施予定 ・ 委員会の定例化。SNSによる情報周知の検討。 ・ 個々の課題発掘に向けた事例検討や交流会の実施検討。 ・ 区内事業所への各種情報等の周知。 【こどもチーム】 ・ 茶話会、研修、事例検討、広報発行などを例年通り行う予定。 ・ 役割分担について研修担当や広報担当などを明確化。 ・ SNSを用いた情報交流と周知を継続。 【おとなチーム】 ・ 茶話会、研修、事例検討などを例年通り行う予定。 ・ 情報収集や周知の方法を検討。研修等開催時間の検討。
	<防災に関する取組> ・ 特にありません。
	部会運営で工夫していることや困っていること
	【工夫している】 ・ 各チームで茶話会や交流会を活発にすることで部会運営の参加者が増えている。 ・ おとなチームとこどもチームに分けて、さらに各チームの構成員は成人や児童の事業所を問わずに多業種で構成し議論することで、課題発掘や解決の幅が広がる。 【困っている】 ・ より多くの区民や事業者協議会活動を知ってもらうためには、またネットワークを作るには、ほかにどのような手段が考えられるのか。

西区地域部会



令和6年度の主な活動実績

- ★ 事務局会議を対面で開催。
- ★ 全体会を1回、元気の出る交流会を3回、いずれも参集して開催
- ★ 相談支援推進会議を2回開催
- ★ 西区子ども部会で交流会を2回開催

活動概要

令和6年度 活動実績	・ 事務局会議（4月、7月、9月、11月、1月） ➢ 全体会や交流会の内容の検討、進捗状況の確認 ➢ 全体会で挙げられた地域課題の整理 ・ 第1回全体会（6月） ➢ 今年度の活動予定について ➢ 令和6年度元気の出る交流会のテーマの検討と役割について 3グループに分かれてグループワークで検討 ・ 第1回元気の出る交流会（10月）参加者54名 ➢ テーマ 「障がいのある方や家族をとりまく問題に関する意見交換会」 親子・利用者との関わり・虐待・カスタマーハラスメントの 4つをテーマにグループワークで意見交換を行う。 ・ 第2回元気の出る交流会（12月） ➢ 障がい福祉サービス事業者向け事業所説明会 19事業所（児童2、通所系11、その他6）が出展し、西区 内外から33人程が来場。出展事業所の説明と共に来場者との 情報交換を行った。 ・ 第3回元気の出る交流会（2月）参加者54名 ➢ 障害年金に関する勉強会 藤井法務事務所 障害年金研究室 藤井啓道氏を講師に 障害年金の制度やこれまで関わった支給手続きでの事例を 紹介
---------------	---

	・相談支援推進会議（７月）、（３月） ➢ 委託相談支援事業所と西区役所保健福祉課との間で情報交換・報酬改定について情報共有 ・西区子ども部会 - 第１回交流会（７月）１００名参加 ➢ 「家族支援・未就学の子どものあるなこと、こんなこと・就学後の支援・園、学校、児童デイとの連携」をテーマにグループワークを行う。制度改定について情報共有 - 第２回交流会（１月）７０名参加 ➢ 『シンポジウム★障がいを持つ子を育てるということ』４名の保護者をパネラーとして障がい児を育ててきて良かった支援や関係機関との連携についての経験を共有
令和７年度 活動予定	・事務局会議の開催（６月、８月、１０月、１２月、２月） ・全体会の開催（６月） ・元気の出る交流会の開催（７月、９月、２月）。 ・相談支援推進会議の開催（３回） ・子ども部会の交流会を開催（２回）
部会運営で工夫していることや困っていること	
・令和５年度に構成員に対し改めて交流会の企画運営に協力できるのかどうかの意思確認を行った。また、西区地域部会の活動が負担にならないよう新型コロナ前に行っていた元気まちマーケットを取りやめ、全体会や交流会の回数を絞る等の活動の見直しを行った。それにより構成員も前向きに参加しやすくなっている。 ・事業所間の顔の見える関係作りができるよう年３回の交流会の内、１回は事業者向け事業所説明会、もう１回はグループワークをメインとした内容としている。 ・事業者向け事業所説明会を冬に開催してきたが、積雪のため集まり難い状況であったため令和７年度は秋頃に開催を変更した。	

手稲区地域部会



令和6年度の主な活動実績

- ★ 各グループで研修会、座談会を実施
- ★ 事業所製品販売会、および地域交流イベントを開催（6月、3月）
- ★ 「第33回ていね夏あかり」の実施に協力
- ★ JR手稲駅 あいくる広場にて手稲区障がい福祉活動PR展を開催

活動概要

令和6年度 活動実績	・事務局 ➤ 毎月1回定例会議を開催 →奇数月：事務局会議 偶数月：拡大事務局会議 ➤ Facebook ページおよびBlogでの活動情報発信 ➤ 7月14日に行われた「ていね夏あかり」に参加 →ちょうちんの製作、縁日の出店などを行う ➤ 9月20日と3月7日に全体会を開催 →全運営委員で活動内容および活動予定について確認 ➤ JR手稲駅にて「手稲区障がい福祉活動PR展」を開催 →事業所ポスター、パンフレットの掲示、当事者の活動を写した写真展、当事者の作品展などを行った ➤ Route148にて地域交流イベント「しあわせマルシェ」を開催 →区内社会福祉法人与共催 →事業所製品販売会および子ども向けイベントを行った。 ➤ 障がい支援区分認定調査にかかわる課題について、区内障がい福祉事業所宛てに中央区地域部会で作成した「障がい支援区分認定調査の心得」と厚労省HPでアップされている「認定調査員マニュアル」を紹介し、事業所を利用されている当事者、ご家族への情報周知を依頼した →手稲区地域部会 Facebook およびBlogにも情報を掲載した
-----------------------	---

	・子どもグループ（児童系サービス事業所、関係機関で構成） ➤ 毎月１回定例会議を開催 →各種企画の打ち合わせや情報交換を行う。 ➤ 12月13日に研修会をオンライン開催 →テーマ「通える児童デイサービスが少ない子どもたちを受け入れるための勉強会～報酬改定と事例報告を交えて～」 →受け入れの事例が少ない強度行動障害、重症心身障害、医療的ケア児の受け入れに関して行政から報酬改定で関連する加算などの説明を受け、各事業所からの事例発表を通して理解を深めた →研修会については区内のみではなく全市より参加者を募った ・地域生活支援グループ（成人系サービス事業所、関係機関で構成） ➤ 毎月１回定例会議を開催 →各種企画の打ち合わせや情報交換を行う ➤ 6月20日～21日に「ていねうえるふえあま～けっと」を開催 →手稲神社にて区内事業所の製品販売会を行う ➤ 11月22日に座談会を開催 →事業所職員の早期の離職を防ぐべく、同じ境遇（職歴が浅い）の方の交流の場を設け、悩み事などの共有等を行った ➤ 3月13日に研修会を開催 →テーマ：「利用者さんとの向き合い方、伝え方、支援に行き詰った時の考え方」 →座談会の際に募った意見を元に、はるにれの里の加藤潔氏に講演をしていただいた。 →研修会については区内のみではなく全市より参加者を募った
	＜防災に関する取組＞ 特に無し
令和7年度 活動予定	➤ 事務局会議および各グループの定例会に関しては昨年度と同様の頻度にて開催予定（それぞれ月１回） ➤ 確定済みの予定に関しては以下の通り

	6月 「ていねうえるふえあま〜けっと」の開催（6/27～6/28） 7月 「第34回ていね夏あかり」への参加協力 9月 「全体会」を対面にて開催（年度中間報告） 12月 「手稲区障がい福祉活動PR展」をJR手稲駅で開催 3月 「全体会」をオンラインにて開催（年度末報告、次年度計画） ➤ 各グループにて研修会を企画、開催する。 ➤ 前年度に続き Route148 での「しあわせマルシェ」の開催を行う（開催時期、回数は未定） ➤ Facebook、Blog での定期的な活動状況の発信を継続していく ➤ 運営会議より提示されたヘルパー課題の調査報告書を元に手稲区地域部会として取り組める事について検討を行う ➤ 西区地域部会で企画している「事業所説明会」への参加協力を行う ＜防災に関する取組＞ 特に無し
部会運営で工夫していることや困っていること	
◎工夫している事項 ➤ 運営委員（構成員）には成人、児童どちらかのグループに所属していただき、グループ毎に毎月定例会を開催する事で活動の活発化を図っている。 ➤ 各グループの定例会についてはそれぞれの運営委員の参加可能状況を考慮して開催時間や開催形態を工夫している。（オンラインでのランチミーティングや対面とオンラインを合わせたハイブリッド方式など） ➤ 資料など運営委員間での共有が必要な物に関しては運営委員間で地域部会の Google アカウントを使って Google ドライブ内にて共有を行っている。 ➤ 定例会の議事録の作成は参加委員の輪番で作成しているが、今年度より統一の書式を使用することで議事録作成の負担軽減を図っている。 ➤ グループ間の連携が希薄にならないよう、部会全体で行うイベントを増やしている。	

◎困っている事項、今後の活動課題

- 参加運営委員の大多数が障害福祉サービス事業所の所属であるが、日中活動系事業所に所属している方が多く、話題が偏ってしまう事がある。（ヘルパー事業所などの居宅系サービス事業所の参加はなく、グループホーム等の居住系事業所の参加も少ない）
- 現在、運営委員に当事者の方の参加がなく、当事者目線での地域の中での課題を汲み上げにくい状況が見られる。
- 地域課題の抽出について、具体的なプロセスなどを運営委員で共有する場が必要と思われる。
- 参加委員の負担を分散化させるべく運営における役割分担などを今後も模索していくことが必要。

地域部会連絡会



令和6年度の主な活動実績

- ★ 各区地域部会における活動の取り組み状況を共有した。
- ★ 各区地域部会が有する地域課題の共有と協議を行った。

活動概要

令和6年度 活動実績	・ 定期的に会議を開催（4/19・9/12・11/14・2/20）。4回とも zoom 開催 ➤ 各区地域部会の近況報告を行い、活動内容や困りごとについて、情報交換 ➤ 9月の会議から事前提出の活動報告シートを用いて近況を共有し会議内での議論の効率化を図る ➤ 重度身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトの取組経過について情報共有 ➤ ヘルパー調整の難しさに関する課題についての進捗報告。 ➤ 市専門部会と地域部会内の専門部会との連携について情報共有 ➤ 指定相談支援事業所の体制加算に関連して地域部会との連携の在り方や考え方についての情報精査。区内での専門部会化への取り組みなどについて共有。
---------------	--

○構成：各区地域部会長

○事務局：札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

相談支援部会

令和6年度の主な活動実績

- ★ 年間活動計画に沿った活動を行う。
- ★ 定例会（5月、9月、2月）、事務局会議（4月、6月、8月、11月、1月、3月）、エリア会議（4月、7月、12月）、巡回法律相談会（全12回）、地域支援員会議（6月、10月、3月）、ピアサポーター事業所会議（4月、7月、10月、1月）に開催。
- ★ 定例会で承認された内容や通知文書の整理、実施状況報告書ガイドラインの見直しなど、運営上の課題ごとにチームを編成し、整理を行う。

活動概要

令和 6年度 活動実績	・相談支援部会定例会3回、事務局会議6回、エリア会議3回開催。 それぞれの事業所から提出された「課題調べシート」をもとに、事務局会議で内容の整理を行い、エリア会議においてそれらの共有・検討を行った。 各々の事業所が直面した課題を共有し、対応事例を確認したり、内容を考察し合うことで支援スキルの向上につなげることができている。 ・派遣会議・関連会議の参加においては、相談支援部会として共有されている見解を表明したり、情報提供などをおこなっている。また、会議内容を報告書等において、定例会で共有している。 ・就労系などサービス提供事業所のサービス内容はますます多様化が進んでいるが、その一方で、利益供与が疑われる事案なども耳にすることが増え、地域の健全な福祉的環境を維持するために、相談支援事業所として何ができるのかということがトピックとなっている。札幌市に情報を伝えていくだけでなく、制度が目指す主旨などを、福祉事業者などとも日常的に共有していく大切さを確認している。
-------------------	--

	・ 居宅介護事業所がサービス提供を拒否する場合に、運営基準の「サービス提供の拒否」「サービス提供困難時の対応」に該当しない状況においても、対応を断っているのではと思われる事案もあるため、相談支援部会からの意見として、札幌市の集団指導に含めてもらう提案をおこなった。
令和 7年度 活動予定	○令和7年度の重点目標 ・ 課題調べシートから、課題の解決策を検討する。 ・ 課題調べシートから、相談支援事業所間の格差解消に向け、知識や情報の共有を図る。 ・ 巡回法律相談会への相談や参加者からの相談により、法律的知識を身につけ、相談援助技術を磨く。 ・ 地域責任性をより意識し、指定相談支援事業所との連携強化による相談支援体制の構築を目指す。 ・ 障害者虐待防止法に関する現状の確認と動き方の共有を図る。 ・ 成年後見制度利用における課題の共有と成年後見推進センターの活用について共有する。 ・ 役割の平準化を念頭においた「概念図」を基盤とし、新たな相談支援部会体制を構築する。 ・ 区役所保健福祉課の機構改革に対応した地区割等、新たな相談支援体制の整備。

部会運営で工夫していることや困っていること

・相談支援部会における業務平準化及び体制整備の一環とし、相談支援部会として受ける会議参加や講師依頼には「実行部隊」担当事業所が対応するものとし、窓口事業所が依頼内容を集約した後に、担当事業所選定に向けた発信を行うこととした。

・これまで相談支援部会での検討や行政からの通知文書等によりに運用がルール化されたものが、時間が経過した現在、必ずしも確認したいときに確認しやすい形となっていないため、「公文書チーム」により過去の内容の整理を行い「内規」としている。今後も、課題調べシートなどにより問題提起された内容について、事務局会議で検討し、定例会で承認を得たものを内規に反映させていく。

就労支援推進部会

令和6年度の主な活動実績

- | | |
|---------------------------|------------|
| ★ 定例会・学習会の開催 | ★ 運営委員会の開催 |
| ★ 各種チーム（研修企画チーム、広報チーム）の活動 | ★ その他の活動 |

活動概要

令和6年度 活動実績	★ <u>就労支援推進部会 部会構成員 定例会・学習会の開催</u> ・5月10日(金)13:00～16:45、かでの2・7-820会議室 参集実施 ・115名/87機関（ハローワーク、北海道障害者職業センター、就労系サービス事業所、就業・生活相談支援事業所、高等支援学校、企業等）参加。 ・部会前年度活動報告・今年度計画を説明し、部会構成員や運営委員・各活動チームへの積極的な参画を呼び掛け ・札幌市障がい福祉課より、報酬改定の周知説明、虐待事例を交えた虐待防止周知 ・学習会では、就労継続支援B型事業所と職業リハビリテーション機関（障害者職業センター、就業・生活相談支援事業所等）による一般就労にむけた連携支援の実践報告（3事例）を受けて、グループワークにて情報・意見交換を行った。 ★ <u>運営委員会の開催</u> 8月7日(水)、2月26日(水) オンライン実施 ★ <u>各チームの活動</u> ● 研修企画チーム ・2024 JC-NET ジョブコーチ養成研修 in 札幌（実行委員形式） - 基礎課程 8月17日(土)～18日(日) オンライン - 実践課程 10月10日(木)～12日(土) 産業振興センター 32名受講（訪問型28名、企業在籍型4名） ● 広報チーム ・さぼコン（若手支援者の意見を聴く会） 2月28日(水) キャリアバンク 27名（経験3年未満）参加 ・さぼサポ（就労支援推進部会 活動周知の広報誌）の発行 ★ <u>その他の活動</u> ● 札幌職リハ連絡会議 - 札幌市内3所のハローワーク、障害者職業センター、札幌市就業・生活相談支援事業所（ナカポツ5所）、北海道労働局、札幌市障がい福祉課の11機関で各種連携にむけた情報交換や協議を行なった
-----------------------	--

	(5月29日(水)オンライン、2月3日(月)市役所12F会議室) ● 3ハローワーク管轄毎、ハローワーク・ナカポツ連携強化会議を毎月参集で継続。管轄毎に求職者支援・企業支援(職場アセスメントや雇入れ提案への同行)など連携して取り組んだ。 ● 札幌市商工会議所主催の「採用担当者・就労移行支援事業所 交流会・見学会」の事前周知・交流会運営に協力。 (7月1日(月)15:30~17:10、北海道経済センター、 企業8社/12名、就労移行18事業所/33名、計45名参加) ● おがる・親の会共催研修にて「就労場面における合理的配慮」について実践報告に協力 (9月7日(土)13:00~15:30、かでの2・7)
令和7年度 活動予定	★ 就労選択支援事業制度開始(10月~)に伴う周知・研修の検討等を目的に調査を実施 ・就労系障害福祉サービス事業所を運営する法人対象(4月) ・指定相談支援事業所対象(5月頃) ★ 部会構成員定例会・学習会の開催 (5月14日(水)午後、かでの2・7大会議室、就労選択支援事業の制度説明や、昨年度就労選択モデル事業に協力された事業所からの実践報告・シンポジウムを予定) ★ 運営委員会の開催 ★ 相談支援専門員対象の「就労選択支援事業創設」にむけた研修 (6月16日(月)、札幌市産業振興センター、相談支援部会との共催) ★ 各チーム会議の開催・各種活動 - 事業提案チーム… 事業所指定や地域連携体制の提案にむけた協議 - 研修企画チーム… ・就労支援の基礎的な研修 (8月1日(金)、かでの2・7、相談支援部会・子ども部会の構成員も参加対象に) ・JC-NET 共催 発達障がい就労支援セミナー (10月31日(金)~11月1日(土)、産業振興センター) ★ その他の活動 - 札幌職リハ連絡会議(2回) 3ハローワーク管轄毎にハローワーク・ナカポツ連携会議(月1回)を継続。 - ハローワーク管轄毎に、就労系サービス事業所等も交えた学習(ハローワーク・ナカポツとの連携方法など)や交流機会の実施を目指す。

部会運営で工夫していることや困っていること
今年度、部会定例会で運営委員を募ったが、参加申し出者なし。 部会事務局より、新たに4人委嘱を提案・運営委員の了承を得て、部会運営委員の体制強化を行った。

子ども部会



令和6年度の主な活動実績

- ★ 年3回の運営委員会及び運営委員会前の事務局会議を開催
- ★ 子ども部会主催の研修会の企画実施、他団体との協働による研修会の開催

活動概要

令和6年度 活動実績	【運営委員会】 ・第1回・2回はオンラインにて開催、研修会テーマなどについて検討。 ・第3回は令和7年度会議と同日に対面にて開催。 【各種研修会の実施】 ・10月4日に子ども発達支援者支援力向上セミナー初級コースを開催。 対面で68名参加。 ・11月8日に子ども発達支援者支援力向上セミナー中級コースを開催。 対面で40名参加。 ・1月28日に子ども部会全体研修会を児童発達支援センター長会議と共催 で開催。対面で80名参加 【各種子ども関連会議への参加】 ・札幌市子ども子育て会議、児童福祉部会、処遇部会、要保護児童対策地域協議会、札幌市医療的ケア児支援検討会、発達障がい者支援地域支援協議会、発達障がい者家族への支援部会、障がい者プラン策定計画検討部会に委員を派遣 【その他】 ・子ども発達支援ガイドブック（乳幼児期版）の改訂 ・子ども部会の活動報告である「子ども部会ニュース」の発行
---------------	--

令和7年度 活動予定	・子どもの発達に関する様々な課題について整理及び検討 ・事業者の資質向上および横のつながりの構築に向けた各種研修会の実施 ・札幌市が実施する各種子ども・発達支援に関する会議・協議会への参加と意見提案及び連携 ・社会的養護と障がいのある子どもへの支援について関係団体との交流 ・各区地域部会子ども部会との情報交流 ・訪問巡回支援にかかる機関・団体との情報交流会 ・子ども発達支援ガイドブック（学齢期版）の改訂
部会運営で工夫していることや困っていること	
（工夫点） ・支援を必要としている子ども本人だけではなく、家族やその支援者を支えるための活動。 ・幼児を含め「子ども」本人の参加は難しいが、今後当事者の若者を運営会議への参加を検討しながら、本人のニーズや意見などを尊重できるよう考えている。 （検討が必要な課題） ・「子ども」を取り巻く状況だけではなく、子どもの実態そのものが変わってきているように感じている、がどのように変わってきているのか精査していくことが必要と考えている ・子どもの発達についての精査とともに、多機関による縦と横双方のつながりの強化について考えていくことも課題。	

専門部会連絡会

令和6年度の主な活動実績

- ★各部会での地域課題の共有状況や課題への取り組み等を共有した。
- ★各部会の連携における情報交換・情報共有。

活動概要

令和6年度 活動実績	・令和6年9月2日開催（オンライン） 各部会の活動報告。質疑応答、意見交換。 それぞれの部会で行う研修を、他の部会でも共有していく形の連携についても検討。また、各部会共通の話題としては、部会長の負担の大きさから、担い手の確保に問題を抱える実情が共有された。 ・令和7年2月25日開催（オンライン） 各部会の情報交換。就労支援推進部会において就労選択支援事業が大きなトピックとなっていることなどを共有。 また、札幌市における障がい福祉サービスの質の問題について、各部会における現状を共有しながら、意見交換が行われた。
---------------	---

○構成：就労支援推進部会、相談支援部会、子ども部会

○事務局：札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

運営会議



令和6年度の主な活動実績

- ★ 中央区地域部会から提出されたヘルパー調整の難しさに関する課題について、アンケート調査の結果集約や協議会として対応できることの整理を行った。
- ★ 終了したプロジェクトチームの残された課題の取組方針を検討・確認した。

活動概要

令和6年度 活動実績	・5月、7月、9月、11月、1月、3月にオンライン会議を開催した。 ○ヘルパー調整の難しさに関する課題についてのアンケート調査 ・中央区地域部会から提出されたヘルパー調整の難しさに関する課題について、同部会で実施した調査をもとに、市内の居宅介護事業所及び相談支援事業所を対象として、市内の実態把握をするためのアンケート調査を令和5年度に実施している。 ・令和6年度は、自由記述等の集約や全体的な結果の取りまとめを行い、結果から見えてきた課題やすでに取り組まれている工夫などをもとに、施策的な課題、身近な地域の工夫が検討できる課題について、協議会として取組可能な対応に関する意見交換を行った。 ・調査結果の取りまとめは年度末に各部会あてに発出。概要版も作成し、全体会の資料として提供した。 ○その他 ・重度身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトチームの取組状況について共有した。
令和7年度 活動予定	・ヘルパー調整の難しさに関する課題に関して、運営会議での意見交換で挙げられた各地域部会で検討できる取組のアイデアを地域部会にも共有し、各地域部会の取組を継続的に集約し、好事例集に反映させていく。 ・重度身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトチームの取組、ヘルパー調整の難しさに関する調査結果、令和5年度に東区地域部

	会から提出された強度行動障がいに関わる課題」及び「ヘルパーの人材不足に関わる課題（人材 獲得・育成・定着など）」について等に対する取組をもとに、障がい者プラン 2024 の一部改定に向けて協議会から提言する内容を検討する。 ・各部会から提出される地域課題に関する取組方法の整理や地域のネットワーク構築に関する意見交換等を行い、課題解決に向けた取組につなげていく。
--	---

○構成：会長、副会長、地域部会長 5 名、専門部会長 3 名

○事務局：札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

課題の整理状況	平成 26 年度 (H27.3)	平成 27 年度 (H28.3)	平成 28 年度 (H29.3)	平成 29 年度 (H30.3)	平成 30 年度 (H31.3)	令和 元 年度 (R2.3)
課題整理後仕分け実行へ	14	20	40	70	54	54
課題整理後仕分け実行し、 一定の改善がみられた	—	—	—	—	45	45
課題整理中	37	45	49	28	5	7
部会再検討へ	7	2	2	0	0	0
部会で解決済み	3	3	3	3	3	3
未着手	8	8	3	0	0	0
計	69	78	97	101	107	109

課題の整理状況	令和 2 年度 (R3.3)	令和 3 年度 (R4.4)	令和 4 年度 (R5.3)	令和 5 年度 (R6.3)	令和 6 年度 (R7.3)
課題整理後仕分け実行へ	62	62	66	66	25
課題整理後仕分け実行し、 一定の改善がみられた	45	45	46	46	94
課題整理中	0	0	0	7	0
部会再検討へ	0	0	0	0	0
部会で解決済み	3	3	3	3	3
未着手	0	0	0	0	0
計	110	110	115	122	122

市域協議会への報告年度	課題№
平成24年度	1～18
平成25年度	19～40
平成26年度	41～69
平成27年度	70～78
平成28年度	79～97
平成29年度	98～101
平成30年度	102～107
令和元年度	108～109
令和2年度～4年度	110～115
令和5年度～6年度	115～122

札幌市の障がい福祉におけるヘルパーサービスの現状に関する調査結果報告【概要版】

札幌市自立支援協議会運営会議 令和 7 年 3 月

1 調査の目的・方法について

札幌市自立支援協議会運営会議では、中央区地域部会からの提案を受けて、ヘルパーサービスの利用調整が難しい状況が生じていることについて、全市的な実態を把握することを目的として、以下のアンケート調査を実施した。

- 調査時期:令和 5 年 12 月 20 日～令和 6 年 2 月 16 日
- 調査対象:居宅介護事業所 583 事業所、相談支援事業所 178 事業所
- 調査方法:無記名式アンケート。Google フォームに回答者が任意でアクセスし回答
- 調査項目:

- 居宅介護事業所対象の調査項目
 - ・基本情報:所在区、令和 4 年度の新規問合せ件数、内利用につながらなかった件数
 - ・居宅介護・重度訪問介護、同行援護、行動援護、移動支援:指定状況、対応するサービス内容、契約状況、契約に至らない場合の理由の詳細、利用希望に添えない場合の工夫
 - ・その他:新規対応ケースに関する困りごと、居宅介護事業所としての困りごと、所在区内のヘルパーサービスの状況に関する困りごと
- 相談支援事業所対象の調査項目
 - ・基本情報:所在区、指定状況、ヘルパーサービスの調整の有無、令和 4 年度の新規問合せ件数、内利用につながらなかった件数
 - ・居宅介護・重度訪問介護、同行援護、行動援護、移動支援:ヘルパーサービスの調整状況、契約に至らない場合に居宅介護事業所から説明を受けた理由の詳細、利用希望に添えない場合の工夫
 - ・その他:新規対応ケースに関する困りごと、相談支援事業所としての困りごと、所在区内のヘルパーサービスの状況に関する困りごと

○分析方法:選択式回答はクロス集計、自由記述式回答は質的分析による

2 結果の概要

- 回答率:居宅介護事業所 150 事業所(回答率 25.7%)、相談支援事業所 75 事業所(回答率 42.1%)。
- サービス利用契約の成立状況:5 割から8割が契約に至らない場合を経験している

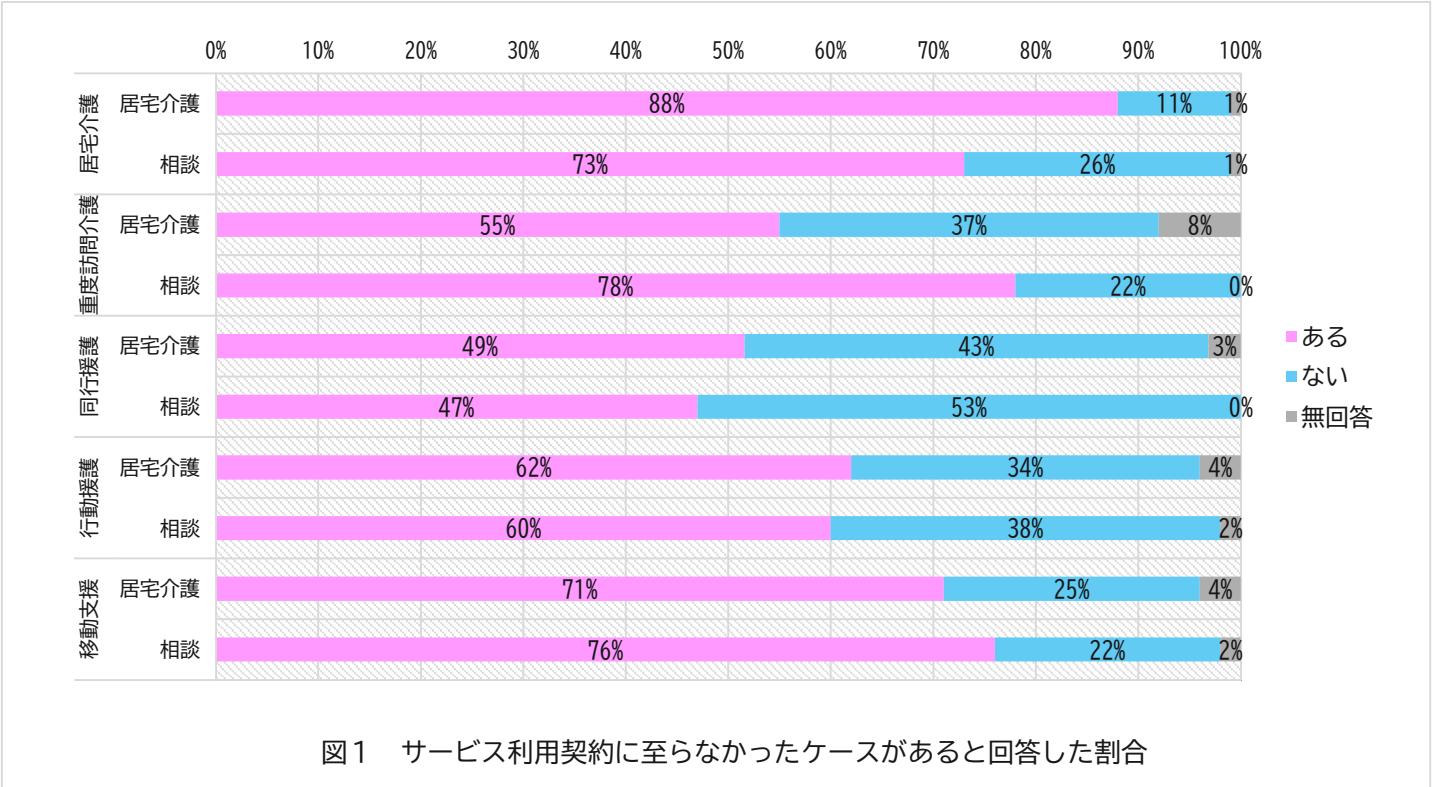


図1 サービス利用契約に至らなかったケースがあると回答した割合

サービス種別によって異なるが、サービス利用契約に至らないケースがあったと回答した割合は、概ね 5 割から8割を占め、高い割合で利用調整が難しいケースがあることが把握できた。

○サービス利用調整が困難な理由：人員不足や利用希望の曜日や時間の集中が主な理由

契約に至らない理由は、居宅介護事業所及び相談支援事業所の両方で、いずれのサービスにおいても概ね共通し、「対応できるヘルパーがいない」、「土曜、日曜、祝祭日に対応できるヘルパーがいない」、「利用希望が集中する時間帯に調整が困難」の順に回答が多かった。

「利用希望が集中する時間帯」は、どのサービス種別も概ね共通し、「午前中(8:00-11:00)」、「15:00-17:00」、「17:00-19:00」の順に回答が多かった。重度訪問介護の場合、相談支援事業所の回答は、「夜間(21:00-5:00)」、「早朝(5:00-8:00)」、「午前(8:00-11:00)」の順に多くなった。

○ヘルパーサービスを巡る各事業所の困りごと：人員不足から利用者との関わりまで悩みごととは多岐にわたる

多く挙げられた悩みごとは、表 1 のとおり「調整に関わる悩み」、「地域性に関わる悩み」、「制度に関わる悩み」、「利用者のかかわりに関する悩み」に分類でき、人材不足やサービス提供体制の効率化、事業者間の連携などの課題が把握できた。

表1 各事業者が直面している悩みごと

分類	課題の具体的内容
調整に関わる悩み	・ヘルパーや事業所の不足で見つからない【相談】
	・人材を確保・育成できない【居宅】
	・強度行動障がいや精神障がい、医療的ケアなど特定のニーズには特に対応できない【居宅】【相談】
	・事業所情報がなく探すのに時間と労力がかかる【相談】
	・別事業所を紹介するにもつながりや情報がない【居宅】
	・利用者の希望に応じた調整が難しい【居宅】【相談】
	・支援に必要な利用者情報を十分に得られないことがある【居宅】
地域生活に関わる悩み	・駐車場の確保、駐車料金、車両確保が難しい。【居宅】【相談】
	・移動距離が長いとコストが大きい【居宅】
	・代替のサービス等地域資源が少ない場合がある【相談】
制度に関わる悩み	・ヘルパー不足(高齢化、資格取得・専門性の向上の機会確保)【居宅】(※再掲)
	・報酬単価が低い場合は採算が合わない(身体介護がない場合等)【居宅】【相談】
	・支給決定と本人の実際の生活との乖離【相談】
利用者への支援に関する悩み	・利用者に調整が難しい状況を理解してもらい難い【居宅】【相談】
	・制度外のことなど過度な要望やクレーム等の対応に苦慮する【居宅】【相談】
	・利用者や家族が制度を理解できていないことがある【居宅】【相談】
	・強度行動障がいや精神障がい、医療的ケアなど特定のニーズには特に対応できない【居宅】【相談】(※再掲)

※【居宅】は居宅介護事業所、【相談】は相談支援事業所を示している。

※支援場面の背景や文脈を個別に考慮することが難しいため、事業者視点の記述のまま結果を掲載している。

○各事業所で工夫していること：利用者との調整や代替手段の提案、事業者同士の連携

各事業所が利用希望に応じられない場合に以下のような工夫がなされていた。

- ・対応可能な日時、利用方法等の提案：利用希望が集中しやすく人員を確保しにくい時間帯を避け、稼働しやすい曜日や時間帯、頻度等を利用者に提案して調整する。

- ・他事業所、他サービスの紹介、提案：パーソナルアシスタント（PA）制度やぬくもりサポート、エプロンサービスなどの有償ボランティア、ネットスーパーや宅配サービス、配食サービスなど、具体的な利用者のニーズに対応した障害福祉サービス以外の資源を代替手段として提案する。
居宅介護事業所間でケースを調整し合ったり、一人の利用者を複数事業所で対応したりできる連携体制を作っている。
- ・その他：ヘルパーのシフトに空きが生じた段階で迅速に対応できるよう利用者との関係性を維持している。等

3 自立支援協議会の取組の方向性

○制度や施策の次元で検討可能な取組

福祉における人材不足は全国的な問題にもなっており、札幌市自立支援協議会では、令和6年度の「さっぽろ障がい者プラン 2024」の策定に関して設置された札幌市障がい者施策推進審議会計画検討部会において、本自立支援協議会から選出された委員が、ヘルパーサービスの問題に関して、過去に活動した「移動に関するプロジェクトチーム」や「ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチーム」などの報告をもとに提言を行った経過がある。次期障がい者プラン策定に向けて提言していくため、本調査結果を踏まえて準備を行っていくこととした。

○身近な地域の次元で検討可能な取組

地域のネットワークを活用して各地域部会を中心にどのような取組として、運営会議では、各地域部会が取組み可能なことの案を悩みごとの内容に応じて、表 2 の整理を行った。

表2 調査結果から得られた課題と取組可能な対応策の例

分類	課題の具体的内容	各地域部会で可能な取組の案
調整に関わる悩み	・人材を確保・育成できない【居宅】	・研修会や学習会、事業所の交流の場の開催（ノウハウをもつ部会を中心に近隣の部会が協同で研修等を実施する、既存の研修会の活用を促す） ・ケースで連携するための顔の見えるネットワークづくり ・「元気さーち」の更新と活用 ・リアルタイムで情報共有できる仕組みの構築
	・強度行動障がいや精神障がい、医療的ケアなど特定のニーズには特に対応できない【居宅】【相談】	
	・事業所情報がなく探すのに時間と労力がかかる【相談】	
	・別事業所を紹介するにもつながりや情報がない【居宅】	
	・利用者の希望に応じた調整が難しい【居宅】【相談】	
	・支援に必要な利用者情報を十分に得られないことがある【居宅】	
地域生活に関わる悩み	・駐車場の確保、駐車料金、車両確保が難しい。【居宅】【相談】	・駐車許可書や駐車違除外指定の活用や周知 ・事業所間のカーシェアリングシステムの検討
	・移動距離が長いとコストが大きい【居宅】	・利用者の身近なエリアで対応できる事業所を探すための事業所間の情報共有の仕組みの構築
	・代替のサービス等地域資源が少ない場合がある【相談】	・既存の活用可能な地域資源、不足している地域資源を具体的に整理する
制度に関わる悩み	・支給決定と本人の実際の生活との乖離【相談】	・事例検討による課題の整理
利用者への支援に関する悩み	・利用者に調整が難しい状況を理解してもらい難い【居宅】【相談】	・事業所向けの対応事例集を作成 ・利用者向けの制度説明やサービス利用に関する留意事項を掲載したリーフレット等の啓発資料を作成 ・研修会や学習会の開催（既存の研修会の活用を含む）
	・制度外のことなど過度な要望やクレーム等の対応に苦慮する【居宅】【相談】	
	・利用者や家族が制度を理解できていないことがある【居宅】【相談】	
	・強度行動障がいや精神障がい、医療的ケアなど特定のニーズには特に対応できない【居宅】【相談】（※再掲）	

※【居宅】は居宅介護事業所、【相談】は相談支援事業所を示している。

運営会議では、障がいのある方の実状を知るための有効な方法のひとつである当事者を講師とした研修に取り組んでいる地域部会があることも共有された。多くの地域部会ではこうしたノウハウがない状況があるため、ノウハウを有する地域部会と近隣の地域部会が研修を共同開催し、ノウハウを共有していくアイデアも挙げられた。

また、事業所情報を探す方法のひとつに札幌市が開設する「元気さーち」という市内の事業所情報に関する検索サイトの活用がある。札幌市では「元気さーち」の定期的な更新を事業所に対して促しているが、周知が行き届きにくい状況があり、地域部会において、各部会が開催する定例会や研修会の際に、周知資料の配布を行うなどの協力を行うアイデアも挙げられた。

今後、具体的に各部会で検討を進めるにあたり、このような部会同士の連携、行政との協働による積極的な取組のアイデアが生まれることを期待したい。

4 まとめ

本調査は、中央区地域部会からの提案を受けて、自立支援協議会運営会議の委員を中心に実施したものである。調査の対象は、居宅介護事業所と相談事業所であり、当事者からではなく事業者を介して実態を把握する構成となっている。このため、特に悩みごとは、事業者視点の回答が多くなりやすく、当事者視点とは異なる問題の見え方になっている可能性もある。本来は、当事者と事業者の双方の視点を把握することが望まれるが、「さっぽろ障がい者プラン 2024」の策定に先がけて札幌市が実施した、令和4年度(2022年度)の「障がい児者実態等調査」の障がい児者を対象とする調査においては、居宅介護・重度訪問介護・重度障害者等包括支援及び同行援護・行動援護の現在のサービス利用状況の問いに対して、当事者の回答のうち7割程度が無回答となっており、実態を把握しがたい状況もうかがわれる。そのため、運営会議では、実態把握のための調査は本調査をもって終了とし、より身近な地域のレベルで「ヘルパーサービスの調整が困難であるという問題」の整理や、具体的な取組の検討をしていきたいと考えている。

特に札幌市のような大都市において、障がい者一人一人の個別性を大事にしながら暮らしやすい地域づくりをしていくためには、顔の見える身近な地域における関係性を構築が重要になる。今回の調査で得られた地域のネットワークの構築や情報共有網の整備、研修会や学習会等を通じた地域で人材育成していく仕組みづくりの必要性は、福祉全般に共通する課題であると考えられる。自立支援協議会では、令和4年度に地域の課題集めから解決に至るまでの自立支援協議会の取組の流れをわかりやすく見える化した「好事例集」を作成しており、今回の課題に対してこれから取り組まれる各部会の好事例についても、共有可能な財産として「好事例集」に追加し、残していきたい。

最後に、本調査の実施にあたり、居宅介護支援事業所、相談支援事業所の多くの事業者様にご協力いただきました。業務ご多忙のなかでご協力いただきましたことに心から感謝申し上げます。

***札幌市自立支援協議会の取組については、以下の札幌市公式ホームページからご覧ください。**

<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/tiikijiritusien/tiikijiritusien.html>

札幌市自立支援協議会 課題整理一覧について(令和 7 年 5 月末現在)

今まで札幌市自立支援協議会に提出され、検討されてきた課題については、以下のように整理をいたしました。

1. 現在プロジェクトチーム等で継続して検討している課題

提出課題に関連するプロジェクトチームが活動中。または障がい者プラン提言へ向けてまとめ作業を行っている課題。

【分冊①】

プロジェクトチーム名	◇ ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチーム
主力カテゴリ	支援技法・障がい特性
経過・結果	● 第 35 回全体会(令和2年 12 月)にてプロジェクトチームの報告およびプロジェクトチームの終了が承認される。 ● 第 36 回全体会(令和 3 年 6 月)ヘルパーの人材不足や技術向上の課題については、引き続き抽出し検討していくことを運営会議より報告、承認。 ● 令和5年度、令和6年度全体会にて、運営会議において中央区提出課題「ヘルパーサービスの調整の難しさについての課題」においてアンケート調査を行うことを検討、実施することが報告された。調査は令和6年度末にまとめられ、専門部会、地域部会へ共有された。

【分冊③】

プロジェクトチーム名	◇ 重複障がいに関するプロジェクトチーム ◇ 重度身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトチーム
主力カテゴリ	身体と知的の重複障がい
経過・結果	● プロジェクトチームとしては、令和元年にいったん終了。ワーキングチームを設置。 ● 第 39 回全体会(令和 4 年 12 月)にて、新たに重度身体障がい者に関するプロジェクトチーム設置することについて承認。 ● 第 40 回全体会(令和 5 年 6 月)にて、重度身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトチームの活動開始について承認。 ● 令和6年度全体会(42回、43回)にて、プロジェクトチームの活動報告が行われている。主な活動としては、令和5年度にはアンケート調査の実施、令和6年度には札幌市職員による重度身体障がい当事者の地域生活の視察、当事者の生活についての動画作成。 ● 当事者の生活実態視察後に行われたプロジェクトチームとの意見交換の意見も参考に令和6年度末には、「重度訪問介護の非定型による支給決定に係る個別状況調査票等作成の手引き」の一部改訂が行われた。

【分冊⑨】

プロジェクトチーム名	プロジェクト設置なし
主力カテゴリ	分冊①～⑧に含まない又はカテゴリ分けされていない課題
経過・結果	● 協議会のプロジェクトチーム等で継続的に検討が行われている

2. 一旦、協議会での取組みを終了した課題

提出課題についてプロジェクトチーム設置・検討され、プロジェクトチームとしての活動が終結。その後、課題に関わる施策内容が、さっぽろ障がい者プランに掲載された課題。課題によっては、協議会以外の組織等で検討中のものもある

【分冊②】

プロジェクトチーム名	◇ 住まいに関するプロジェクトチーム
主力カテゴリ	住まい
経過・結果	- 第36回全体会(令和3年6月)にてプロジェクトチームの終了を報告、承認。居住支援協議会との連携については、相談支援部会に引継ぎ。「一人暮らしガイドブック」の周知については、運営会議に引継ぎ。その他残された課題についても運営会議に引継がれることを確認された。 - 令和4年度に作成された札幌市自立支援協議会好事例集にこの課題に関する「一人暮らしガイドブック」作成の取組みについて掲載された。 https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/tiikijiritusien/tiikijiritusien.html - 令和6年3月にさっぽろ障がい者プラン2024が策定された。基本施策1に「差別解消・権利擁護の推進・虐待防止」、基本施策2に「バリアフリー環境の整備」、基本施策3に「情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実」が示されている。 https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/keikaku/

【分冊④】

プロジェクトチーム名	◇ 身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム
主力カテゴリ	地域移行
経過・結果	※取組みが継続されるものは地域生活支援拠点検証委員会にて継続検討中。 - 第36回全体会(令和3年6月)にて、身体障がい者、知的障がい者の地域移行に関する課題の抽出を専門部会、各地域部会で行うことについて承認。課題抽出を依頼中。 - 第38回全体会(令和4年5月)にて、札幌市自立支援協議会の組織の中に新たに地域生活支援拠点検証委員会の設置が承認された。

プロジェクトチーム名	◇ 精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム
主力カテゴリ	地域移行
経過・結果	※取組みが継続されるものは札幌市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討会にて継続検討中。 - 令和3年9月より札幌市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討会にて課題検討を継続中。 - 令和6年3月にさっぽろ障がい者プラン2024が策定された。その中の障がい者計画の基本施策5「自立・相談の支援」が示されており、施設入所者・精神科病院入院患者の地域生活への移行推進についての取組みが掲載されている。 https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/keikaku/

【分冊⑤】

プロジェクトチーム名	◇ 移動に関するプロジェクトチーム
主力カテゴリ	移動
経過・結果	● 第35回全体会(令和2年12月)にてプロジェクトチームのまとめ報告およびプロジェクトチーム終了の承認。 ● 第36回全体会(令和3年6月)にてプロジェクトチームの最終報告書を札幌市ホームページに掲載することを確認。報告書については各地域部会等で活用していくことを依頼。残された課題解決へ向けての検証の場を協議会の中に持っていくことを承認。 ● 第40回全体会結果(令和5年6月)にて、さっぽろ障がい者プランの改訂へむけて、自立支援協議会よりプラン策定に関わる課題等について提言を札幌市施策推進審議会計画検討部会にて行っていくということを共有した。 ⇒令和6年3月に令和6年度からのさっぽろ障がい者プラン2024が策定された。その中の障がい者計画の基本施策1に「バリアフリー環境の整備」が示された。建築物のバリアフリーや移動のバリアフリーについての新規事業がいくつか示されている。 https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/keikaku/ ※また、福祉のまちづくり推進会議においては、札幌市福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル改訂など、バリアフリーに関する検討がすすめられた。協議会から提言された内容について、一部取り上げられている。 https://www.city.sapporo.jp/fukushi/suishin/gaiyou.html

【分冊⑥】

プロジェクトチーム名	◇ 教育と福祉と医療の連携に関するプロジェクトチーム
主力カテゴリ	教育
経過・結果	● プロジェクトチームは平成30年度末で終結。継続的に検討が必要な課題については、子ども部会および課題が関係する組織で引き続き検討。

【分冊⑦】

プロジェクトチーム名	プロジェクト設置なし
主力カテゴリ	相談支援
経過・結果	● 令和6年3月に令和6年度からのさっぽろ障がい者プラン2024が策定された。その中の障がい者計画の基本施策5「自立・相談の支援」が示されており、相談支援事業の充実という取組みが記載されている。 https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/keikaku/

【分冊⑧】

プロジェクトチーム名	プロジェクト設置なし
主力カテゴリ	行政の仕組み
経過・結果	● 第30回札幌市自立支援協議会全体会で、各区地域部会に対し、年1回程度の行政との合同会議開催に関しては、各区の状況に合わせて必要に応じ開催。内容については全体会にて報告していくことが承認。 ● 課題に関わる施策内容がさっぽろ障がい者プランに掲載されたため、一旦協議会での取組み終了。

【分冊⑩】

プロジェクトチーム名	プロジェクト設置なし
主カテゴリ	分冊①～⑧に含まないまたはカテゴリ分けされていない課題
経過・結果	● 課題に関わる施策内容がさっぽろ障がい者プランに掲載、もしくはその他の事業等で取組が行われているため、一旦協議会での取組み終了。なお取組みが継続されるものは課題引継ぎ先にて継続。

全体会

令和6年度の主な活動実績

- ★ 重度身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトチームの取組に関する報告。
- ★ 地域生活支援拠点検証委員会に関する報告。
- ★ まちづくりサポーターの活動報告。
- ★ 「さっぽろ障がい者プラン 2024」の策定及び「さっぽろ障がい者プラン 2018」の 2023 年度の進捗状況報告。

活動概要

令和6年度 活動実績	◇ 第42回自立支援協議会（令和6年6月26日開催） ➤ 各部会からの報告をもとに令和6年度の年間活動報告書を決定し札幌市へ報告。 ➤ 地域生活支援拠点検証委員会における運用状況及び課題に関する報告を受けた。 ➤ 札幌市自立支援協議会好事例集の完成を報告。 ➤ 重度身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトチームの設置を承認。 ➤ さっぽろ障がい者プラン 2024 の策定について報告を受けた。 ◇ 第43回自立支援協議会（令和6年12月4日開催） ➤ 会長・副会長の選出を行った。 ➤ 各部会及び運営会議から活動状況の中間報告を行った。 ➤ 重度身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトチームから活動報告を行った。 ➤ 「さっぽろ障がい者プラン 2018」の 2023 年度の進捗状況について報告を受けた。
---------------	--

令和7年度 活動予定	・引き続き、各部会やプロジェクト、運営会議の活動内容を共有しつつ、関連機関との連携を進めながら、地域の課題から新たな資源の開発に結び付けていく。 ・さっぽろ障がい者プランの一部改定に向けて検討を行う施策推進審議会の委員に、会長、3専門部会長が就任する予定。
---------------	---

○構成：委員名簿に記載のとおり

○事務局：札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

重度身体障がい者の地域生活に関する プロジェクトチーム



担当委員：小熊委員

令和6年度の重点項目（令和7年度末プロジェクト終了予定）

- ・ 重度訪問介護の非定型申請の問題を含めた重度身体障がい者の地域生活全般についての困りごとに関するアンケート調査の報告書を作成した。
- ・ 非定型申請については、重度身体障がい者の生活実態を理解するために行政とともに視察を行った。
- ・ 令和7年度に行う研修用の動画を作成した。
- ・ 令和7年度に改正されることになった「重度訪問介護の非定型による支給決定に係る個別状況調査票等作成の手引き」に本プロジェクトチームから「重度訪問介護を利用する立場から」というコラムを挿入させていただいた。

活動概要

令和6年度 活動実績	・ 毎月会議実施 ・ 札幌市障がい福祉課職員、相談支援事業所、重度訪問介護事業所を対象とした研修を企画し、研修で使用する重度身体障がい者の生活実態の動画を作成した。 ・ 委員をアンケート整理チームと動画作成チームに役割分担し、各チームで検討を重ねた。
令和7年度 活動予定	・ 札幌市障がい福祉課職員、相談支援事業所、重度訪問介護事業所を対象とした研修の実施。 ・ 取り組めなかった課題の整理。 ・ プロジェクトチーム活動総括。 ・ 障がい者プラン提言へ向けての議論。

課題の概要

- ・プロジェクトチーム発足のきっかけであった、重度訪問介護非定型支給決定について、大きな成果を得た。札幌市自立支援協議会の好事例集に載せられるかを検討する。
- ・重度身体障がい者が地域生活を送るにあたって、制度、人材不足、障がい児の支援、親なき後等の課題が山積している。

プロジェクトの目標

課題ごとの解決を目指し、最終的には令和9年障がい者プランの改定に間に合うように提案を行う。

構成員 敬称略

分 野	所 属	氏 名
学識経験者	北海道医療大学 看護福祉学部福祉マネジメント学科 講師	近藤 尚也
障がい当事者	北区地域部会 部会長	紺野 順子
障がいサービス事業所 (通所)	株式会社マザー 企画広報室 室長 札幌アシストセンターマザー相談支援事業所	小谷 晴子
障がいサービス事業所 (居宅)		
相談支援事業所	相談支援事業所グリーンハイム（委託相談支援事業所）	山田 訓義
	相談室あんど（指定相談支援事業所）	伊西 夏恵
豊平区地域部会	特定非営利活動法人イコール	小熊 広道
当事者家族	北海道重症心身障害児(者)を守る会	太田 由美子
協議会運営会議委員	特定非営利法人障がい者就労支援の会 あかり家	妻倉 ゆかり
オブザーバー	認定特定非営利活動法人 DPI 日本会議 副議長	西村 正樹

(事務局)

札幌市障がい福祉課	斉藤、皆越
さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール	赤杉、高村

令和 6 年度札幌市自立支援協議会年間活動報告書

＜分冊 1 年間活動報告編＞

編集・発行 札幌市自立支援協議会

<http://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/tiikijiritusien/tiikijiritusien.html>

